一級自動車工学科、自動車整備科 自動車整備・カーボディマスター科 自動車整備・マスターメカニック科 自動車整備・トータルマスター科	2023年度 授業計画

時 期	2年前期	単元	実習	教科名	車両2A
科 目	自動車整備作業	教科書等 持参品		発行日	2023年3月7日
総時限 必須時限	33時限 32時限			教科 担当	田口 桂 富田 收

1. 指導教員の実務経験　該当　非該当

自動車整備士として車両整備全般の整備の実務経験がある教員により車両部品の分解・組立・点検等について指導する。

2. 教科の目的（この学科の狙い、目的を明確に記入）

1. 実習授業で車両の取り扱い方法と注意点を学び、実際のお客さまの車両を取り扱うことへつなげる目的で行う。
2. 重量物脱着を行う場合の作業方法、そのときの注意点を学ぶために行う。
3. 共同作業の大切さを学ぶために行う。
4. 繊細な作業、大胆な作業の判断を付けるために行う。

3. 授業の到達目標（何を理解し何が出来るようになるのか）

1. お客さまの車両（実習車両）の取り扱い方法を理解する。
2. サークルチェックの意味を理解し、確実に車両のチェックが出来る。
3. 車両ごとに車両保護のカバー類の取り付けが正しく出来る。
4. 重量物脱着時，共同作業時の危険予知を常に意識させること。
5. ＡＴの脱着の手順を理解し、安全に正しく、確実に出来る。
6. 各種工具の取り扱い、ボルト、ナットの回し方、締付けトルクを理解し、場所に適した工具が使える。
7. 安全、確実、スピーディな作業姿勢を体感し、身に付ける。
8. 臨機応変な作業を身に付ける。
9. ＥＳＭを活用し脱着手順、点検要領、基準値などを探せるようになる。

4. 学習評価（期末試験での主な試験項目）

・学科履修試験で評価する。学科履修試験は80分間で実施する。
　○×、選択肢、記述により100点満点で評価する
・合格点：60点以上
　80点以上：優　　60点以上：良（一級工学科70点以上）　　60点未満：不可（一級工学科70点未満）
・不合格の場合、再試験を受験し、60点以上で合格とみなす。（一級工学科70点以上）
　再試験合格の場合、得点に関わらず評価は「可」とする。
・再試験不合格の場合、学校長の権限により教科判定試験を実施し、合格とみなす場合がある。

5. 準備学習

適切な工具の使用方法・工具選択方法を確認しておくこと

一級自動車工学科、自動車整備科
自動車整備・カーボディマスター科
自動車整備・マスターメカニック科
自動車整備・トータルマスター科

2023年度 授業計画

時 期	2年前期	単元	実習	教科名	車両2A

5．授業概要（時限ごとの主な授業内容）

時限	主な授業内容
1	実習概要、安全作業について
2～17	A班：FFオートマッチクトランスアクスル脱着（F15）
17~32	B班：FRオートマッチクトランスミッション脱着（V37）
33	車両復元
	途中各試験を実施する
	Ａ班：時間内にトルクコンバータの脱着
	ドライブシャフト脱着
	B班：時間内にA/T脱着
	プロペラシャフト脱着

6．教科書、資料、備品類

資料、備品類	数量
スカイライン(V37)	5
ジューク（F15）	5
排気ダクト	10
作業台	10
パーツキャディー	20
ウエス	適量
ペーパーウエス	適量
クロスレンチ	10
エアインパクトレンチ	10
ソケット（21）	10
エクステンションバー（125）	10
プレート型トルクレンチ（230 F	10
プレート型トルクレンチ（920 F	10
プリセット型トルクレンチ（1800	10
フェンダーカバー	10台分
グリルカバー	10台分
足マット	10台分
ハンドルカバー	10台分
シートカバー	10台分
ＡＴＦ（CVT用20ℓ）	5
ＡＴＦ（ＡＴ用20ℓ）	5
リフトアタッチメント	10台分
ソケット（30）	10
ラチェット	10
ハブロックナットレンチ	10
タイヤレバー	10
ミッションジャッキ	10台分
エンジンサポート	5台分
オイルチェンジャー	1
F15ドライブシャフトシール	5台分
V37 AT脱着整備要領書	5台分
ＥＳＭ（パソコン）	5台分

一級自動車工学科、自動車整備科 自動車整備・カーボディマスター科 自動車整備・マスターメカニック科 自動車整備・トータルマスター科	2023年度 授業計画

時 期	2年前期	単元	実習	教科名	車両2B
科 目	自動車整備作業	教科書等 持参品		発行日	2023年3月7日
総時限 必須時限	33時限 32時限			教科 担当	田口 桂 富田 收

1. 指導教員の実務経験　該当　非該当

自動車整備士として車両整備全般の整備の実務経験がある教員により車両部品の分解・組立・点検等について指導する。

2. 教科の目的（この学科の狙い、目的を明確に記入）

1. 電気の回路図を読み取ることができる。
2. 不具合現象の確認からその回路を特定できる。
3. 故障診断器を使用し不具合箇所の絞り込みができる。
4. 測定結果から不具合部位の特定ができる。
5. 安全にドアレギュレターの脱着ができる。

3. 授業の到達目標（何を理解し何が出来るようになるのか）

1. お客さまの車両（実習車両）の取り扱い方法を理解する。
2. テスターを正確に使いこなすことができる。
3. 電気回路図から電気の流れを読み取る。
4. 不具合現象から正常時の電気の流れを読み取り各点の正常電圧が分かる。
5. 測定結果から不具合部分を特定できる。
6. 故障診断器を使用し、データモニタ・アクティブテストを実施系統を判断できるようになる。
7. ドアレギュレータ・ドアガラスを安全に取り外すことができる。
8. 確実にドアレギュレータを取り付け、作動確認ができる。

4. 学習評価（期末試験での主な試験項目）

・学科履修試験で評価する。学科履修試験は80分間で実施する。
　○×、選択肢、記述により100点満点で評価する
・合格点：60点以上
　80点以上：優　　60点以上：良（一級工学科70点以上）　　60点未満：不可（一級工学科70点未満）
・不合格の場合、再試験を受験し、60点以上で合格とみなす。（一級工学科70点以上）
　再試験合格の場合、得点に関わらず評価は「可」とする。
・再試験不合格の場合、学校長の権限により教科判定試験を実施し、合格とみなす場合がある。

5. 準備学習

電気配線の色、カプラーのオス、メスなど1年で習ったことを見直しをする。

一級自動車工学科、自動車整備科
自動車整備・カーボディマスター科
自動車整備・マスターメカニック科
自動車整備・トータルマスター科

2023年度 授業計画

時 期	2年前期	単元	実習	教科名	車両2B

5．授業概要（時限ごとの主な授業内容）

時限	主な授業内容
1	授業概要説明
2～3	F15　PWシステム概要、フェイルセーフ、の確認、電気の流れを回路図を用いて確
4～5	メインSW入出力値の測定
6	エンコーダについて理解する、車両を用いて正常電圧の測定
7～12	パワーウィンドウ故障診断　（練習）
13	パワーウィンドウ故障診断　実技試験
14	E13　ヘッドライトシステム概要、電気の流れを回路図を用いて確認
15	車両を用いて正常電圧の測定
16～18	修理書を用いた故障診断の実施方法にての実施
19	故障診断器を使用しての絞り込み作業の実施方法（アクティブテスト・デー
20～25	ヘッドライト故障診断　（練習）
26	ヘッドライト故障診断　実技試験
27～29	E13　ドアレギュレータの脱着練習
30～32	F15　ドアレギュレータの脱着練習
33	実習試験

6．教科書、資料、備品類

資料、備品類	数量
ジューク（F15）	5
ノート（E13）	5
養生テープ	適量
作業台	10
パーツキャディー	10
ウエス	適量
フェンダーカバー	10台分
グリルカバー	10台分
足マット	10台分
ハンドルカバー	10台分
シートカバー	10台分
ESM（PC）	3台
故障診断器（コンサルト）	5台
電導師	10台分

一級自動車工学科、自動車整備科 自動車整備・カーボディマスター科 自動車整備・マスターメカニック科 自動車整備・トータルマスター科	2023年度 授業計画

時 期	2年後期	単元	実習	教科名	車両2C
科 目	自動車整備作業	教科書等持参品	定期点検整備要領書	発行日	2023年3月7日
総時限 必須時限	33時限 32時限			教科担当	田口 桂 富田 收

1. 指導教員の実務経験　該当　非該当

自動車整備士として車両整備全般の整備の実務経験がある教員により車両部品の分解・組立・点検等について指導する。

2. 教科の目的（この学科の狙い、目的を明確に記入）

・実習授業で車両の取り扱い方法と注意点を学び、実際のお客さまの車両を取り扱うことへつなげる目的で行う。
・法定2年点検を理解し実施できる。
・正しく記録簿が記入できる。
・検査ラインが使用できるようにする。

3. 授業の到達目標（何を理解し何が出来るようになるのか）

・お客さまの車両（実習車両）の取り扱い方法を理解する。
・サークルチェックの意味を理解し、確実に車両のチェックができる。
・車両ごとに車両保護のカバー類の取り付けが正しくできる。
・法定2年点検ができる。
・各種工具の取り扱い、ボルト、ナットの回し方、締付けトルクを理解し、場所に適した工具が使える。
・安全、確実、スピーディな作業姿勢を体感し、身に付ける。
・検査機器を取り扱えるようになる。

4. 学習評価（期末試験での主な試験項目）

・学科履修試験で評価する。学科履修試験は80分間で実施する。
　○×、選択肢、記述により100点満点で評価する
・合格点：60点以上
　80点以上：優　　60点以上：良 (一級工学科70点以上)　　60点未満：不可 (一級工学科70点未満)
・不合格の場合、再試験を受験し、60点以上で合格とみなす。（一級工学科70点以上）
　再試験合格の場合、得点に関わらず評価は「可」とする。
・再試験不合格の場合、学校長の権限により教科判定試験を実施し、合格とみなす場合がある。

5. 準備学習

・定期点検整備要領書を確認し、１２ヶ月点検の項目を復習しておくこと

一級自動車工学科、自動車整備科
自動車整備・カーボディマスター科
自動車整備・マスターメカニック科
自動車整備・トータルマスター科

2023年度 授業計画

時 期	2年後期	単元	実習	教科名	車両2C

5．授業概要（時限ごとの主な授業内容）

時限	主な授業内容
1	概要　安全作業についてなど
2	記録簿の記入説明
3	足回りの点検
4	足回りの点検
5	足回りの点検
6	足回りの点検
7	足回り確認テスト
8	下回り点検
9	下回り点検
10	下回り点検
11	下回り点検
12	下回り点検
13	下回り点検
14	下回り確認テスト
15	エンジンルーム点検（ベルト交換、ラジエターキャップテスター、比重測定）
16	エンジンルーム点検
17	エンジンルーム点検
18	エンジンルーム点検
19	エンジン始動時の点検
20	エンジン始動時の点検
21	エンジン始動時の点検
22	エンジン始動時の点検
23	2年点検通し練習
24	2年点検通し練習
25	2年点検通し練習
26	2年点検通し練習
27	2年点検通し練習
28	2年点検通し練習　検査ライン
29	2年点検通し練習　検査ライン
30	2年点検通し練習　検査ライン
31	2年点検通し練習　検査ライン
32	2年点検通し練習　検査ライン
33	実習試験

6．教科書、資料、備品類

資料、備品類	数量
シルフィ（Ｂ１７）	10
作業台	15
パーツキャディー	15
ウエス	適量
ペーパーウエス	適量
クロスレンチ	10
エアインパクトレンチ	10
プレート型トルクレンチ（230Ｆ）	10
プレート型トルクレンチ（920Ｆ）	10
プリセット型トルクレンチ（1800ＱＬ）	10
フェンダーカバー	１０台分
グリルカバー	１０台分
足マット	１０台分
ハンドルカバー	１０台分
シートカバー	１０台分
ソケット（２１）	10
サークルチェックシート	学生分
リフトアタッチメント	１０台分
ソケット（30）	10
ラチェット	10
ハブロックナットレンチ	10
整備記録簿	学生分
タイミングライト	10
プッシュプルゲージ	5
バネばかり	5
ブレーキ踏力計　50kgf	1
CO，HCテスタ	1
タイヤゲージ	10
車両１Ｄ　オンデマンド動画	

一級自動車工学科、自動車整備科 自動車整備・カーボディマスター科 自動車整備・マスターメカニック科 自動車整備・トータルマスター科	2023年度 授業計画

時 期	2年後期	単元	実習	教科名	車両2D
科 目	自動車整備作業	教科書等 持参品	日産ＴＳ３級 お客様対応テキスト 日産ＴＳ４級 お客様対応テキスト	発行日	2023年3月7日
総時限 必須時限	33時限 32時限			教科 担当	田口 桂 富田 收

1. 指導教員の実務経験　該当　非該当

自動車整備士として車両整備全般の整備の実務経験がある教員により車両部品の分解・組立・点検等について指導する。
自動車整備士として電気装置整備の実務経験がある教員により電装品の構造・作動について指導する。

2. 教科の目的（この学科の狙い、目的を明確に記入）

1. 実習授業で車両の取り扱い方法と注意点を学び、実際のお客さまの車両を取り扱うことへつなげる目的で行う。
2. 共同作業の大切さを学ぶために行う。
3. 繊細な作業、大胆な作業の判断を付けるために行う。
4. 点検作業に付帯する、定期点検部品の交換作業ができる。
5. サーキットテスタを用いて正確に測定ができるようになる。

3. 授業の到達目標（何を理解し何が出来るようになるのか）

1. お客さまの車両（実習車両）の取り扱い方法を理解する。
2. ディーラーオプション品であるドアバイザーの取付,撥水コーティング、ホイールコーティングが出来るようになる。
3. 各種工具の取り扱い、ボルト、ナットの回し方、締付けトルクを理解し、場所に適した工具が使える。
4. 安全、確実、スピーディな作業姿勢を体感し、身に付ける。
5. 点検作業に付帯する、定期点検部品の交換作業ができるようになる。
6. 配線図をしっかり読み、テスターを使用して正確に測定することができる。

4. 学習評価（期末試験での主な試験項目）

・学科履修試験で評価する。学科履修試験は80分間で実施する。
　○×、選択肢、記述により100点満点で評価する
・合格点：60点以上
　80点以上：優　　60点以上：良 (一級工学科70点以上)　　60点未満：不可 (一級工学科70点未満)
・不合格の場合、再試験を受験し、60点以上で合格とみなす。（一級工学科70点以上）
　再試験合格の場合、得点に関わらず評価は「可」とする。
・再試験不合格の場合、学校長の権限により教科判定試験を実施し、合格とみなす場合がある。

5. 準備学習

記録簿の書き方の復習をしておくこと
配線図の見方、サーキットテスタの使用方法を復習しておくこと

一級自動車工学科、自動車整備科
自動車整備・カーボディマスター科
自動車整備・マスターメカニック科
自動車整備・トータルマスター科

2023年度 授業計画

時 期	2年後期	単元	実習	教科名	車両2D

５．授業概要（時限ごとの主な授業内容）

時限	主な授業内容
1	実習概要説明
2～12	TS３級　電装分野実技練習
	2～4　　ＰＷ概要（ＴＳ３級実技）、配線図確認、電気の流れ確認
	5、6　　暗電流概要、計測練習
	7～11　PW計測練習
13	TS3級電装分野　実技試験
14~18	ガラスウインドウ撥水、ホイールコート加工
18～22	エアーバック、プリテンショナシートベルト脱着
23～25	ドアミラー格納モーター交換
	（2～13時限、14～25時限　A班B班で入れ替え）
26～27	TS3級　整備結果説明
	概要説明、ご用命確認、記録簿を使った説明、料金説明、
	保安基準適合証説明
28～32	ロープレ練習
33	実習試験

６．教科書、資料、備品類

資料、備品類	数量
DAYZ（AA0）	１台
DAYZ（AA1）	４台
ジューク(F15)	５台
電導師	10個
電気コードリール	10個
サーキットテスタ	1
日産ＴＳ3級　お客様対応テキスト	1
お客様対応スタンダードＤＶＤ	1
お客様対応のＴＵＢＯ　ＤＶＤ	1